

令和元年度 湯浅町社会福祉協議会 事業報告総括

令和元年度の当会の運営は基本理念達成に向けて、各部署の職員が相互の連携を行い、協議を重ねながら円滑に事業を実施できる組織作りに努めてきました。

まず昨年度より重点的に取り組んでいる社協活動に対する理解の促進について、社協会費収集時期に合わせてパンフレットを全戸配布し、よりわかりやすく事業に関心の持てる社協だよりになるよう紙面を工夫し、ホームページなども活用するなど多面的に情報提供を行えるように努めました。

相談援助事業では、心配ごと相談を相談業務の核として、弁護士・公証人・介護相談等の相談所の運営を始め、福祉サービス利用援助事業や困窮者自立支援では県社協や町と連携を密にしながら利用者の課題解決に向けて、寄り添う支援を行うとともに、新型コロナウイルス対応として特例の貸し付け相談を実施するなど、社協にしかできない役割を意識しながら相談業務に取り組みました。

「地域共生社会」の構築に向けて取り組んだ公益的な事業として、地域の自主的なサロン活動に対する支援事業を実施し、現在6カ所の支え合いの団体が活動してくれています。

福祉教育活動では、小中学生を対象とした夏のボランティア体験学習の開催、認知症サポーター養成講座や福祉学習での各小学校への出張講座をはじめ、自治区や企業等に対し、幅広い啓発に努めました。

介護事業については、利用者・ご家族の方がより満足いただけるサービスの提供、やすらぎ家族会の開催、満足度アンケートの実施等、社協の介護事業としての視点を意識した業務に努めることにより、介護三事業を合わせて社会福祉法人の役割の1つである公益事業への還元を行うことができました。

以上のように、令和元年度も広く住民の皆様に賛同いただける事業を実施できたと考えています。